

# 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 (財)川崎市身体障害者協会  
会長 中込 義昌  
編集責任者 広報・啓発委員会  
委員長 森 孝一  
〒210-0834 川崎区大島1-8-6  
川崎市南部身体障害者福祉会館内  
電話 044-246-6941  
FAX 044-246-6943  
Email zksk@nifty.com  
http://kawashinkyo.org

## 川崎市障害者社会参加推進センター

川崎市障害者社会参加推進センター（以下「推進センター」）では、障害の有無にかかわらず、誰もが家庭や地域で明るく暮らせる社会づくりに向けて、障害者の地域での自立生活支援と社会参加を推進するために、さまざまな事業を実施しています。

また、身体・知的・精神の各障害の団体がその専門性を活かしながら、事業を展開しています。

推進センターで行っている事業のひとつ、啓発・普及事業の一環として、これまで発行していた会報「川身協」を、新たに今号より「川崎市障害者社会参加推進センター通信」として推進センターの会報を発行することといたしました。是非ご愛読いただきますようお願い申し上げます。

さて、創刊第1号としまして、今号は推進センターの紹介として、推進センターで行っている様々な事業の紹介、関連する障害者団体の紹介をさせていただきます。

### 推進センター事業紹介

① 川崎市障害者社会参加推進協議会の設置・運営事業

川崎市障害者社会参加推進センターの運営及び実施事業などについて、身体障害・知的障害・精神障害の障害者団体等の代表者で協議しています。

② コミュニケーションの確保等事業

点訳奉仕員や朗読奉仕員の養成事業を行っています。また、視覚障害者に対して点字広報等発行事業などを行っています。

③ 生活訓練等事業

○各部会により、障害者に対して日常生活上必要な様々な訓練や指導などを行っています。

障害者レクリエーション教室や各種スポーツ教室・障害者作品展等を開催したり、次の事業を実施しています。

《視力部会》家庭生活訓練、社会生活教室、三療技術研修会

《聴力部会》ろうあ者社会生活教室・日曜教室

《脳性部会》脳性マヒ者社会見学

《肢体部会》下肢障害者歩行訓練

《オストミー部会》オストメイト健康教室

《脊損部会》脊髄損傷者研修会

《難聴部会》難聴者コミュニケーション教室

④ スポーツ振興事業

○川崎市障害者スポーツ大会の開催

《水泳大会》身体・知的・精神の各障害者が参加できます。川崎市民プラザの温水プールを利用しています。

《フライングディスク大会》身体・知的・精神の各障害者が参加できます。比較的気軽に参加できる競技です。

《陸上大会》身体・知的・精神の各障害者が参加できます。会場は、全国レベルの大会でも使用される、等々力陸上競技場です。《アーチェリー大会》身体障害者のみの参加になります。川崎市富士見弓道場で行われます。

《ボウリング大会》知的障害者のみの参加になります。川崎グラウンドボウルで行われます。年齢別、男女混合で 4 ゲーム行います。《卓球大会》身体・知的・精神の各障害者が参加できます。川崎市リハビリテーション福祉センター体育館で行われます。

これらの大会は、次に記載の全国障害者スポーツ大会の代表選手選考会を兼ねています。

#### ○全国障害者スポーツ大会への川崎市選手団の派遣

開催地は都道府県持ち回りで、国体と共に全国障害者スポーツ大会（障害者国体）が毎年行われています。そこに川崎市選手団の派遣を行っています。

#### ○各種球技大会の開催（ボウリング・グラウンドゴルフ・サウンドテーブルテニス等）

川崎市とのスポーツ大会とは別に、推進センター独自で開催しています。

#### ○初級障害者スポーツ指導員養成講習会の開催

障害者スポーツに習熟した指導者を育成することを目的としています。障害に対する基本的知識の研修や、障害者の適性に応じた競技種目の実施・運動方法の指導などを行います。

#### ○身体障害者運動会

事前申込みなしで、当日自由に参加できます。プログラムによっては、来賓の市会議員の方や、ボランティアの方たちも一緒に競技に参加します。

#### ⑤ 相談事業

各種相談に応じたり、障害者相談員の資質向上のために研修会などを実施したりして

います。

#### ⑥ 啓発・普及事業

市民や障害者への啓発活動としてパンフレット・機関紙等、様々な発行物の刊行や、福祉講演会への協力などを行っています。

(平成 21 年度事業報告書より抜粋)

#### (財)川崎市心身障害者地域福祉協会 紹介

(財)川崎市心身障害者地域福祉協会（以下『地福協』）では、川崎市にお住まいの心身障害児者（知的・自閉症・肢体不自由の障害児と障害者）及びその家族への援助を行っています。また、川崎市内の心身障害児者諸団体の活動を、地域でより発展させるための事業を行っています。

『地福協』の事業の多くは、どの団体に所属していなくても川崎市にお住まいの方ならどなたでも利用できるものが中心となっています。

#### ◎設立

昭和 60 年 3 月 30 日 神奈川県知事より、財団法人 川崎市心身障害者地域福祉協会の設立認可書が交付されました。

昭和 60 年 4 月 1 日 知的障害児者親の会、自閉症児者親の会、肢体不自由児者父母の会の 3 団体を母体として、財団法人 川崎市心身障害者地域福祉協会がスタートしました。

#### ◎主な事業内容

##### ○ふれあいショップ運営事業

喫茶及びふれあい製品展示販売（市内 3 ヶ所で運営）

知的障害者の福祉的就労、就労訓練、実習の場です。養護学校生等実習の受け入れや障害者ふれあい製品のアンテナショップとして大きな役割を担っています。

##### ○地域福祉活動グループ助成事業

・地域余暇活動事業（学齢児地域活動助成事業）

障害児が地域交流を通じ、学習・スポーツ・レクリエーション等を行い、生活の充実

を図っています。

学校から帰った後や休日に、どうしても家庭にとじこもりがちになってしまう、障害をもった子供たちを、家庭の外に出して幅広い交流を行わせようと活動する、親やボランティアによるグループがあります。そのようなグループ活動に対し相談や補助金などによる支援を行っています。

・知的障害児者親の会活動助成事業

現在、地区・施設・学校ごとに知的障害者親の会が組織されています。

育成会の各種大会への参加や各支部での活動等により、親の会活動の活性化を図っています

・肢体不自由児者父母の会活動助成事業

この団体の事業は団体独自で企画、運営しています。『地福協』は相談等の支援を行っていきます。定時総会の開催・各種大会への参加・各区での活動・会報発行等により、父母の会活動の活性化を図っています。

・自閉症児者親の会活動事業

この団体の事業は団体独自で企画、運営しています。『地福協』は相談等の支援を行っていきます。総会の開催・各種会議・地区活動・作品展・バザー・講演会等により、親の会活動の活性化を図っています。

○地域活動促進委託事業

・自閉症児者体育訓練委託事業

毎月第 1, 2, 4 日曜日に下沼部小学校の体育館及び柿生学園の体育館で年少部にはリトミック、年長部には体育訓練を行っています。

・自閉症児者生活訓練委託事業

年 2 回バス電車を利用し、社会生活のルールを学び集団行動・対人関係の発達促進を図っています。

・肢体不自由児者レクレーション委託事業

会員の交流と親睦を目的とし日帰りバス

旅行及びクリスマスプレゼント配布事業を実施しています。

・肢体不自由児者地域活動委託事業

父母の会活動の活性化を図る一環として、各区単位で懇親・懇談会を実施しています。

・知的障害者活動奨励事業

各支部親の会が、地区行政担当者などを交え新年懇親会を行っています。

・知的障害者緑陰訓練事業

9 月中旬、バスなどを用いて家族とともに山野、海浜などで野外活動を行っています。

・知的障害者海水訓練事業

7 月下旬、バスなどを用いて海水浴へ行きます。年によっては 1 泊訓練の場合もあります。

・知的障害者春のレクレーション事業

3 月中旬、バスなどを用いて家族とともに楽しい 1 日または 1 泊旅行を行っています。

・知的障害児者研修事業

研修会、懇談会をとおして、知識と精神の充実を図っています。

・水に親しむ会

7, 8 月井田のプールにおいて、水に親しむ会を行っています。

・障害者ふれあい製品振興事業

心身障害者施設・作業所等で作られた製品の紹介及び販売に協力する事業です。

（川崎地下街“アゼリア”のセールへ、心のふれあい賞の賞品としての製品の納入、ショールーム等での製品の展示会、ふれあい製品カタログ作成、その他ふれあい製品受注の取りまとめ、各種販売会への出店）

・心身障害者成人式開催事業

成人を迎えた市内心身障害者で、川崎市が主催する成人式への参加・不参加に関係なく、希望する障害者や家族及び関係

者が一同に集い成人をお祝いし、かつ励ますことを目的とします。

・知的障害者本人部会活動事業

知的障害者本人が主体となって活動する会です。

「私たちの広場」と「川崎スポーツの会」を支援しています。定例会議やイベントを開催しています。

○地域福祉施設「ちどり」管理運営委託事業  
地域福祉施設「ちどり」の 1 階と 3 階部分の管理を川崎市からの委託事業として行っています。

◎法人所在地

財団法人 川崎市心身障害者地域福祉協会

〒213-0011 川崎市高津区久本 3-6-22

地域福祉施設「ちどり」1F

TEL 044-812-2966

FAX 044-822-2262

特定非営利活動法人あやめ会 紹介

統合失調症や躁うつ病など、精神障害のある人たちやその家族への支援活動を行います。市民ボランティアなどを募集して“ひきこもり”への支援組織 あやめプロジェクト「窓の会」を立ち上げ、活動しています。

◎あやめ会(川崎市精神障害者家族会連合会)の概要

創立：昭和 44 年 6 月 22 日

特定非営利活動法人格取得：平成 18 年 2 月 14 日

構成：さんか会、さちの会、こすぎ会、すいよう会、もくよう会、泰山木の会、合計 6 家族会で構成

施設：ケアホーム 2 ヶ所 (ホーム AYAME、あやめサポール)、地域活動支援センター (みなみ) を運営

総会：原則として年 1 回、総会を開催

理事会：年 4 回開催

評議員会：原則として毎月 1 回開催

◎主な事業内容

○「心の健康」相談事業

心の病やリハビリ、福祉制度に関して幅広く相談をうけています。

毎週月曜・金曜の 2 回、10 時～16 時の間家族相談員 2 名が“ちどり”の相談室で待機し、電話ならびに面接相談に対応しています。相談員が精神障害者を身内に持つ家族会員であることから、専門家とは一味違った温かさや生々しい体験が生かされているとして好評を得ています。

○相談技能研修

家族相談員に対しては、資質の維持・向上を図るため、専門講師による相談研修会を年 5～8 回実施しています。

○「家族学習会」事業

主として会員を対象に講師を招いての講習会、会内外の発言者によるシンポジウム等を開催しています。他の障害者団体、関連行政・医療機関も含めた研修会・講演会・シンポジウムなどの行事を毎年 5 回以上主催し、広く学習・交流の機会を提供しています。年間延べ 500 人以上の参加者の資質向上、啓蒙活動に努めています。

○広報活動

「NPO あやめ通信」を季刊発行の他、講演会記録等を小冊子に編纂、関係先に配布しています。

○レクリエーション活動

“ひきこもり”支援「窓の会」活動

精神障害者、特に統合失調症罹患者の多くは、不本意ながら家にひきこもりがちでした。本人の苦悩も大きいに違いありませんが、同居する家族の焦燥の念も強いことでしょう。親子間の葛藤が絶えず、家庭崩壊寸前に至るケースも見受けられます。

このような“ひきこもり”の解消を目指して立ちあげられたプロジェクトチームが、さまざまな試行錯誤を経て現在に至った事業体が「窓の会」です。

■「窓の会」主な活動内容

□個別訪問、面接：随時

ボランティアが利用者の希望に応じて、家庭訪問、外出同伴などを行います。

話し合うことで、対人関係の習熟を目指しています。個人差はありますが、数ヶ月から 2 年程度で後述の個別訪問、面接以外のいずれかの活動メニューに参加出来るようになるケースが多いです。

□個別訪問、面接以外の活動内容

当初は個別訪問がすべてと考えてスタートしましたが、外向きに転じた人たちの行きやすい場所があれば家から出られるとの思いから、気楽に参加できそうな活動メニューを次々と開発していきました。

①音楽教室（療法）：毎月 1 回

大学の先生やボランティアの学生とともに、リクエストした歌の合唱や、リズム楽器演奏など、演歌や唱歌、クラシックなどの曲を皆で楽しみます。

②窓を開けて友達をつくる会（友達会）：毎月 1 回

心理劇・集団療法：精神科の先生の指導のもと、ストレッチや寸劇を演じながら、自己認識を深め利用者間での思いやり、関係性の重要性を学び、孤立からの脱却、人間関係づくりに効果をあげています。

③会員子弟による会務応援制度

あやめ会事務所の留守番や、NPO あやめ通信の発送、「窓の会」からのお知らせの原稿執筆・ハガキ作成・印刷・宛名書き・発送、パソコン教室の助手等のお手伝いをお願いしています。生まれて初めて働く体験をする者にとっても、発病前に就労経験のある者にとっても、人の役に立つ喜びや、達成感を味わう貴重な機会となっています。

④ぶらっと（立ち寄る）会：毎週火・木・金曜日（祝日を除く）

新城「窓の会」フリースペースにぶらっと立ち寄って、自由にくつろぎます。

ボランティアが待機していますので、お

茶菓子を囲んでの雑談や、トランプ、将棋、折り紙なども楽しむ事ができます。最も初参加しやすいメニューの 1 つになっていて、交流の場としての役割を果たしています。

また、月に 1 回（第 4 または第 5 金曜日）誕生日会を開催しています。

⑤グループ活動：毎月 1 回

ボランティアと共に自然散策、施設見学、花火大会、カラオケ等に出かけます。

毎月発行の「窓の会からのお知らせ」に翌月の活動内容、集合場所・時間を明記して利用者へ発送します。当日 A4 の茶封筒を持ったボランティアが集合場所で待つといった方法で活動を行っています。長年孤立してひきこもっていた利用者にとって、貴重な社会参加の機会となっています。

平成 22 年度の実績：4 月・多摩川散策、5 月・等々力溪谷、6 月・東高根森林公園

⑥パソコン教室：毎月 2 回×4 ヶ月コース

初歩から楽しく学べます。PC 技術を学びながら、対人関係づくりに大きな効果をあげています。メンバー優先ですが家族の方も受け付けます。

⑦勉強会：毎月 1 回

精神科の先生を囲んで、利用者が希望する身近なテーマ、医療・薬・福祉制度や対人関係・上手な日常生活の過ごし方等を分かりやすく学べます。主治医に訊けない相談も可能なので、セカンドオピニオンの効果もあります。少しでも病気を理解し、上手に付き合っていくことができればと思います。

偶数月はメンバーが対象で新城「窓の会」で開催、奇数月は家族が対象で「ちどり」の会議室で開催します。

⑧女性だけの茶話会（女性会）：随時

男性と一緒に活動に参加をためらいがちな女性たちも、気楽に語りあいながら簡単な針仕事などの体験を楽しんでいます。

利用者のお母さんだけの参加もできます。

#### ⑨家族会員との合同行事

川崎市福祉バスに分乗して日帰りバスハイクを実施しています。わずか 8 時間足らずではありますが、団体行動を体験する絶好の機会ととらえています。

企画、諸手続き、手配、現場下見、予約、当日の誘導、取りまとめなどは、当事者、家族代表、ボランティアからなる実行委員会方式で進めており、特に委員を務める当事者にとっては、自信を回復する貴重な機会となっています。

#### ■ご利用について

窓の会は、原則として家族会会員のご子弟を対象に活動しております。家族会へ入会をご希望の方は、あやめ会または、お住まいの区の保健福祉センター等へお問い合わせ下さい。会員の方へは、毎月活動に関するお知らせハガキを送付いたします。なお、会員に限らず、プログラムの見学、体験参加はいつでも歓迎しております。

#### ○SST 講座（ソーシャル・スキル・トレーニング）

SST とは、対人場面において円滑な人間関係を成立させるための技術のことです。

講師をお招きして、メンバーさんとの付き合い方や、話し方等実践を交えての勉強をしています。特に新しい会員さんはメンバーさんの日常生活の訓練や、過ごし方などを指導していただけます。

#### ◎法人所在地

特定非営利活動法人あやめ会

〒213-0011 川崎市高津区久本 3-6-22

地域福祉施設「ちどり」内

TEL 044-813-4555

FAX 044-813-4555

（財）川崎市身体障害者協会 紹介

（財）川崎市身体障害者協会では、身体障害者の自立を促し、福祉の向上、障害者に対

する社会の理解を深めるための事業、社会参加を促進する事業を行っており、川崎市内の身体障害者団体と各区の支部で構成しています。実施している事業には川身協事業、推進センター事業、指定管理事業などがあります。

#### ◎主な事業内容

《川身協事業》

#### ○「川崎市民のつどい」

「障害者週間」を記念して、川崎市市長表彰、「心の輪を広げる体験作文」入賞作品川崎市市長表彰、「障害者の日のポスター」入賞作品川崎市市長表彰や、コンサートを併せて行っています。

#### ○重度障害者福祉タクシー事業

福祉有償運送事業者等に乗車した際に、重度障害者に交付されている重度障害者福祉タクシー利用券を利用できるよう、届出を行った福祉有償運送事業者等が受領した福祉タクシー券の取りまとめや支払い事務等を行っています。

#### ○川崎市ろうあ者大会

川崎市ろうあ者大会を市内の聴力障害者とその家族、関係者が年に一度、一堂に会して、聴力障害者の生活と権利を守り、さらに福祉向上、発展を目指して実施しています。（聴力部会）

#### ○身体障害者福祉大会

川崎市内の身体障害者が一堂に会して、身体障害者にかかわる課題を確認しながら、身体障害者相互の連携を深め、共に生きる福祉社会の実現に向けて身体障害者の自立更生と社会参加を促進し福祉の増進を図ることを目的に開催しています。要望事項の提起及び議決を行い、後日川崎市に要望書を提出します。

#### ○支部育成

各区にある 9 支部の活動にかかわる補助、支部体制づくりの支援をしています。

#### ○日盲連関東ブロック協議会

1 都 7 県 4 政令市の視力団体が一堂に会し、式典、記念ミニコンサート、分科会・団体長

会議、懇親会、全体会議を行います。（視力部会）

○団体育成・役員等保険

神奈川県ボランティア事故共済に役員及び委員会委員が加入、ボランティア活動中の万一の事故に対しその保障救済を図り、役員の事業及び会議・研修会等の活動を側面から支援しています。

○団体育成・関連団体会議派遣

各種会議へ役員等を派遣しています。

○ふれあい号貸出事業

市内在住の移動困難な障害者を対象にふれあい号（リフト付き自動車）の貸し出し（レンタル）を行っています。

○ジパング倶楽部

JRジパング倶楽部特別会員（身体障害者）の入会手続きを、日本身体障害者団体連合会を經由して実施しています。ジパング倶楽部の会員になると、特急券を 2～3 割引で購入できます。

○福祉キャブ運行事業

公共交通機関の利用が困難な重度障害者の移動手段の確保及び介助者の介護負担の軽減を目的に、福祉キャブ（リフト付き自動車・全 6 台）を運行しています。

○移動支援等事業

外出での移動困難な障害者児を対象に地域における自立生活及び社会参加を促進するため外出の支援を実施しています（地域生活支援事業）。また、登録介護人を対象に養成・現任の研修なども開催しています。

《推進センター事業》

○川崎市障害者社会参加推進センター運営事業

川身協の大きな事業の 1 つです。身体障害の枠にとらわれずに、知的障害者・精神障害者また、その家族やボランティア、地域社会等健全者も含めた総合的な見地から、障害者の社会参加を推進しています。事業内容は前述の通りです。

《指定管理事業》

○中部身体障害者福祉会館運営事業

・身体障害者福祉団体等に対する便宜の供与  
各種団体が行う会議や様々な研修会に会議室・視聴覚室・日常生活訓練室・リハビリテーション室等を提供しています。

・ボランティアの育成及び障害者福祉の啓発普及事業

手話入門講習会・朗読入門講習会・拡大写本・社会福祉講座・ボランティア体験講習会等を実施しています。

・障害者デイサービス事業

市内に居住する障害者の自立更生・心身機能の向上及び社会適応を推進するため、生活指導や機能訓練等の必要な援護を実施しています。

・地域交流事業

中身館フェスティバルを年 1 回開催し、利用者・利用団体だけでなく、地域住民や周辺の福祉団体との交流を深めて、事業への理解や障害者福祉の啓発普及を図っています。また、会館を利用している障害者団体が、親睦を深めるために一堂に会する、団体交流会を行っています。

・関係機関との連絡調整

障害者団体・関係機関等の代表者により「中部身体障害者福祉会館運営委員会」を組織し、障害者やボランティアの意思等を十分反映し、効果的な運営が出来る様に会議等を実施しています。

・パソコン基礎講習会

パソコンに興味があり、一般のパソコン教室での受講が困難な心身障害者を対象に基礎的なパソコンの操作の習得を目的として実施しています。

◎法人所在地

財団法人川崎市身体障害者協会

〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-8-6 南身館 3F

TEL 044-244-3975

FAX 044-246-6943

## 平成 22 年度 川崎市身体障害者大運動会 開催される

(運動会・写真)

## 「運動会に参加して」

今年は例年になく夏の暑さが秋になっても続き、運動会当日も暑かったです皆さん元気に参加し、楽しい一日を過ごしました。

昨年同様、リハビリテーションセンターのグラウンドが再編整備中で使えないので、川崎区富士見公園内の市民広場で行われました。麻生区、多摩区の方は場所が遠くて大変だったと思いますが、送迎の福祉バスがあつて助かったという声も聞かれました。

役員・スタッフの方は、開会式の二時間以上も前から、会場の設営にあたりました。本当にご苦労様でした。おかげ様で予定通り午前十時半に、関山実行委員長の開会宣言で開会式を始めることが出来ました。中込会長による主催者挨拶に続いて、来賓の三浦副市長、嶋崎市議会副議長、市社会福祉協議会の萩原副会長から祝辞をいただきました。来賓紹介、国体選手紹介、競技上の注意、準備体操と開会式は続き、いよいよ競技の開始です。

最初の競技は、毎年恒例の来賓も参加のゴルフボール競争リレーです。障害者に混ざってスーツにネクタイ姿の来賓が、笑顔でボールを追いかけて右往左往する姿が、会場の雰囲気を一気に盛り上げました。大玉転がしリレー、負けるが勝ち、アイマスク、魚釣り競

争、玉入れとプログラムは続き、ここで昼食の時間です。会場周辺の飲食店に食事に行く人もいますが、運動会ではお馴染みの、シートに車座になり、持参したお弁当を広げるといった光景も見られました。

午後からは、輪投げ、二人三脚、フライングディスク競技、パン食い競争、200Mリレーと見て楽しい、参加するともっと楽しい競技が続きました。また、場内放送を担当したウグイス嬢の的確な案内と、ユーモアあふれる実況放送が大会に花を添えていました。

年々高齢化する中での運動会で、常連の顔が一人ふたりと見えない寂しさはありますが、歳を忘れて競技に打ち込む姿と、賞品を手にした笑顔に触れると気分が明るくなり、運動会に参加して良かったと思いました。

総勢約130名が参加した大運動会、障害に応じて誰でも参加できる種目を設定した配慮と、賞品を提供して下さった市内の作業所の皆様、競技をサポートしてくれました多くのボランティアさんに支えられての運動会でした。年に一度の秋晴れの下で、歳を感じさせない頑張り与交流と親睦を深めた今年の運動会でした。

## 編集後記

- ・ 今号から、会報「川身協」改め「川崎市障害者社会参加推進センター通信」として発行することになりました。この機会に障害者の社会参加について一から考え直してみるのも良いかもしれません。
- ・ 身体、知的、精神、各団体が行っている事業の紹介を通して、改めて障害者福祉の幅広さ、奥深さを感じました。
- ・ 医療や福祉の質やサービスが低下していると感じるのは歳のせい？運が悪いだけ？なかなか答が見つかりません。

(頒価 100 円)